

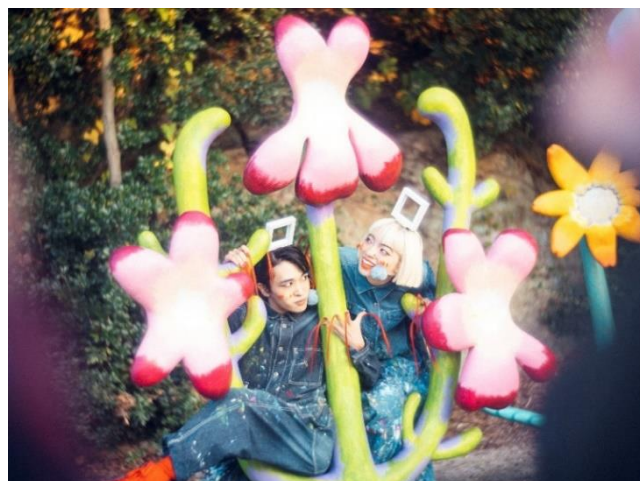
瀬戸内国際芸術祭2025公式イベント

INUJIMAアートランデブー「生きているということ」公演レポート

犬島を舞台にアオイツキと体感する、「生きているということ」の輪郭

公益財団法人 福武財団（理事長：福武英明 香川県、直島）は、2025 年 11 月1日(土)に瀬戸内国際芸術祭2025公式イベントとして、犬島（岡山県、岡山市）にてパフォーマンス作品 **INUJIMAアートランデブー「生きているということ」** を上演しました。本公演は、島内に点在する大宮エリーの作品を目印に出会い、交流しながら島を散策するというINUJIMAアートランデブーのコンセプトを体感できる機会として企画しました。演出及び出演には、作家が依頼していたポエトリーダンスユニット・アオイツキを迎え、言葉と身体表現を織り交ぜたパフォーマンスを繰り広げました。公演を通じて、参加者は内省を深めるとともに、様々な人々が行き交い、交流し、集う場が犬島に生まれました。

生きている ということ



INUJIMAアートランデブー各作品でのパフォーマンスの様子

（左）INUJIMAアートランデブー《光と内省のフラワーベンチ》

（右）INUJIMAアートランデブー《フラワーフェアリーダンスーズ》

写真：miri saito

公演はINUJIMAアートランデブーの作品の他《犬島 暮らしの植物園》を舞台に行われ、参加者は犬島を周遊しながら公演に参加。また公演の一部では、参加者が自分自身に手紙を書いたり、犬島の盆踊りを島民・参加者が一体となって踊るなど、参加型のプログラムを展開しました。

なお、大宮エリーさんは 2025年4月23日に他界されましたが、本イベントは作家のビジョンを未来に繋ぐ形で開催いたしました。

【本リリースに関するプレス問い合わせ先】取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

公益財団法人 福武財団 コミュニケーションプランニング部 広報・プロモーションセクション

メール：press@fukutake-artmuseum.jp 電話：087-892-2550（平日：8:45~17:30）

本イベントの実施前プレスリリースは[こちら](#)をご確認ください。



INUJIMAアートランデブー《フラワーフェアリーダンサーズ》で参加者と共に盆踊りを踊るアオイツキ 写真：miri saito



手紙を書く参加者 写真：miri saito

イベント概要

日時：2025年11月1日(土) 14:30～17:10（公演の間に一時自由時間を含みます）

場所：犬島島内

原案：大宮エリー

演出・出演：アオイツキ(アオイヤマダと高村月)

アートディレクション：千原徹也（株式会社れもんらいふ 代表）

ヘアメイク：富沢ノボル

お弁当製作：パダンパダン 赤木大輔

制作：株式会社れもんらいふ

主催：公益財団法人 福武財団

料金：6,800円（昼食のお弁当、犬島精錬所美術館、犬島「家プロジェクト」の鑑賞料を含む）

※瀬戸内国際芸術祭 2025 パスポートをお持ちの場合 6,500 円

参加者：47名

公演内容

公演タイムテーブル

13:50 チャーター船で犬島着

14:30～14:45『生きているということ そのいち』犬島 ぐらしの植物園

15:00～15:30『生きているということ そのに』INUJIMAアートランデブー 光と内省のフラワーベンチ

16:30～16:45『生きているということ そのさん』INUJIMAアートランデブー フラワーフェアリーダンサーズ

17:30 チャーター船で犬島発

【本リリースに関するプレス問い合わせ先】取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

公益財団法人 福武財団 コミュニケーションプランニング部 広報・プロモーションセクション

メール：press@fukutake-artmuseum.jp 電話：087-892-2550（平日：8:45～17:30）

■牛窓港～犬島へ

参加者は牛窓港からチャーター船に乗り込み、瀬戸内海を渡って犬島へ。約40分の船旅では、大宮エリーの作品や犬島の風景から着想を得た特製弁当を味わいながら、潮風を感じ、島々の表情を眺めました。特製弁当はアオイヤマダの草案の下、大宮エリーが犬島の作品制作時に通っていたイタリアンレストラン パダンパダン（岡山県、岡山市）の赤木大輔によって製作されました。離島での公演という非日常的な体験は、この船旅から始まりました。



大宮エリーの作品や犬島の風景から着想を得た特製弁当 写真：miri saito

■『生きているということ そのいち』犬島 暮らしの植物園

妹島和世＋明るい部屋による《犬島 暮らしの植物園》では、最初のパフォーマンス『生きているということ そのいち』として、園内を広く使った回遊型のパフォーマンスが展開されました。カフェ屋台（設計：妹島和世）でのパフォーマンスを皮切りに、アオイツキが園内を自由に動き、参加者もその軌跡を追って園内を巡ります。パビリオン“HANA”（設計：妹島和世）の周りでは、鍋や、やかん、木など様々な場所にマイクが設置され、アオイツキによる朗読が多層的に響きました。大宮エリーによるペインティングが施された給水タンクでは、衣装替えを交えたダイナミックなパフォーマンスが繰り広げられ、植物園とアオイツキの身体表現が一体となった唯一無二の空間が生まれました。また、公演には高村月が書き下ろした詩『どこにも居ぬ私へ』が用いられ、演出の一部として、大宮エリーと親交の深かった俳優 宮沢りえによる朗読音声が使用されました。



《犬島 暮らしの植物園》での詩の朗読 写真：miri saito



《犬島 暮らしの植物園》の給水タンクでのパフォーマンス 写真：miri saito

【本リリースに関するプレス問い合わせ先】 取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

公益財団法人 福武財団 コミュニケーションプランニング部 広報・プロモーションセクション

メール：press@fukutake-artmuseum.jp 電話：087-892-2550（平日：8:45～17:30）

■『生きているということ そのに』 INUJIMAアートランデブー 光と内省のフラワーベンチ

『生きているということ そのに』の舞台は大宮エリーが制作した、犬島の四季や草花、人々の循環をイメージして色彩豊かに表現されたINUJIMAアートランデブーの作品である《光と内省のフラワーベンチ》。ベンチや海岸を舞台にしたアオイツキのパフォーマンスの後、参加者はパフォーマンスの中で朗読された詩のフレーズである「どこにも居ぬ私」へ向けた手紙をしたためました。この手紙が帰りの船のチケットとなり、乗船時にポストへ投函。後日、犬島郵便局の消印が押されて参加者のもとへ届けられました。



《光と内省のフラワーベンチ》でのパフォーマンス 写真：miri saito



自分自身に手紙を書く参加者 写真：miri saito



イベント終了後、乗船時に手紙をポストに入れる参加者 写真：miri saito

■『生きているということ そのさん』 INUJIMAアートランデブー フラワーフェアリーダンサーズ

『生きているということ そのさん』では、犬島に咲く草花が妖精となって踊る姿を表現した《フラワーフェアリーダンサーズ》が舞台に。パフォーマンスは作品の周囲だけでなく、海岸の岸壁や広場へと広がり、瀬戸内の風景そのものと一体化していきます。音源の一部では大宮エリーが《フラワーフェアリーダンサーズ》制作時に行った島民説明会の録音が用いられました。「みんなに犬島に来てもらいたい」という大宮エリーがINUJIMAアートランデブーに込めた想いを語るその音声が島に響き、参加者それぞれが今犬島にいることについて想いを巡らす瞬間になりました。

【本リリースに関するプレス問い合わせ先】取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

公益財団法人 福武財団 コミュニケーションプランニング部 広報・プロモーションセクション

メール：press@fukutake-artmuseum.jp 電話：087-892-2550（平日：8:45~17:30）

また本作が設置された「ちびっこ広場」は、犬島の盆踊りが行われる場所。アオイツキは事前リサーチの際に犬島の盆踊りに参加し、その体験をもとに、公演の最後には、犬島島民らの手ほどきのもと、出演者・島民・参加者の垣根を越えて、犬島の盆踊りを共に踊りました。



INUJIMAアートランデブー《フラワーフェアリーダンサーズ》でのパフォーマンス
写真：miri saito



島民に盆踊りを教えてもらいながら踊る参加者 写真：miri saito

■島での自由時間

パフォーマンスの合間には自由時間を設け、参加者はアオイツキが制作した犬島マップを手に、島内のアート作品、豊かな自然、静かな集落を思い思いに散策。犬島で過ごす、ゆったりとした時間の中で、自らの内面と向き合い、じっくりと振り返る機会としました。

参加者からは、「盆踊りが終わった後、島の方が『エリーさんも喜んだら』と言われたことで、エリーさんやアオイツキが犬島の方達と向き合い作品を作り上げたということを感じました。」といった島と作品に繋がりを感じるコメントや、「アオイツキの言葉とダンスによるパフォーマンスはどれも素敵でしたが、『フラワーフェアリーダンサーズ』で使用されたエリーさんの声を聴いたとき、そこからエリーさんが現れてくるような気がして涙が溢れました。」という大宮エリーを想う感想が寄せられました。

【本リリースに関するプレス問い合わせ先】 取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

公益財団法人 福武財団 コミュニケーションプランニング部 広報・プロモーションセクション

メール：press@fukutake-artmuseum.jp 電話：087-892-2550（平日：8:45~17:30）

■関係者コメント



写真：新道トモカ

アオイツキ（演出・出演）

プロフィール

アオイヤマダと高村月が踊り語る。

自身の記憶の断片に凹凸を与え、

身体と言葉のパフォーマンスへと昇華させることを試みている。

土地や記憶から派生した高村月の脚本を元に、アオイヤマダが楽曲制作を行い、踊り語りシリーズ『ヒッチハイカー季節～冬～』、『文字の旅』、『居超』などの作品を生み出している。大阪・関西万博閉会式、ap bank fes '25 at TOKYO DOME ～社会と暮らしと音楽と～でのオープニング、北アルプス国際芸術祭や宇多田ヒカルのライブ『SCIENCE FICTION』でパフォーマンスなどを行った。

コメント

公演を通して、エリーさんが残した「生きているということ」という宿題に向き合うことで、自分自身の「生きている」という実感に輪郭を与え、それを再認識する機会となりました。アオイツキの二人で行うパフォーマンスではありますが、常に3人(アオイツキ+大宮エリー)の作品になるよう心がけました。参加者の表情や声を通して、これまでで最もエリーさんを身近に感じる事ができた時間でした。

事前の下見で初めて犬島を訪れた時、ぼんやりと海を眺めるような余白の時間が多くあり、雨の中のカタツムリを見つけたり、鳥の鳴き声に耳を澄ませたりすることがすごく貴重だと感じました。参加者にもそんな時間を過ごしてほしいと思い、公演でも余白の時間を設けることにしました。これは、INUJIMAアートランデブーのコンセプトである「作品を目印にランデブー＝待ち合わせをし、時に休憩しながら島を散策する」ということにも通じると感じています。

別の下見の時には、島の盆踊りに参加させていただきました。島の方に踊りを教えていただきながら、一緒に時間を忘れて踊り続けたことがとても印象に残っており、今回の公演でも取り入れることにしました。その盆踊りの時に感じた「犬島にまた来たい」という素直な思いを、参加者にも感じてもらえたら嬉しいです。今回の公演をきっかけに、私たち自身も犬島のことをできるだけ長く想い続け、できるだけ多く足を運びたいと思っていますし、参加者の皆さんにも犬島へ何度も訪れてほしいと願っています。

【本リリースに関するプレス問い合わせ先】 取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

公益財団法人 福武財団 コミュニケーションプランニング部 広報・プロモーションセクション

メール：press@fukutake-artmuseum.jp 電話：087-892-2550（平日：8:45～17:30）



アートディレクター 千原徹也（株式会社れもんらいふ 代表）
プロフィール

広告から映像制作、映画制作など、さまざまなジャンルのデザインを手掛ける。2024年に原宿ハラカドへ拠点を移し、オープンな場所でのコミュニティショップなどが融合した新しい形のデザイン会社に取り組んでいる。

コメント

このプロジェクトのお客さん、アオイツキのパフォーマンス、関わる人々、その中に混じって楽しんだ犬島の1日。エリーは、自分が前に出るのが好きではない人だったから、その場を用意して、楽しんでね！って遠くで言っているようでした。

心から「楽しかったよー！」ってエリーに報告出来たことが何よりこのプロジェクトに関われてよかったことです。

大宮エリーについて



写真：諸井純二

ベネッセアートサイト直島では、大宮エリーが人と人を繋げ、人に希望を与えるような多角的な創作活動を行っていることをふまえて犬島でプロジェクトを行うことを依頼し、2022年からプロジェクト「INUJIMA アートランデブー」を始めました。

大宮エリーは生前、「島の人々と来島者が自然に交流できる場所を作りたい」との想いを込めて「INUJIMA アートランデブー」のプロジェクトに取り組み、今回のパフォーマンス作品は、その理念を鑑賞者が体験できる機会として構想していました。

■大宮エリープロフィール

1975年大阪生まれ。2025年没。作家業、舞台の作演出、ドラマ・映画監督、映像制作、ラジオのパーソナリティと様々なジャンルで活動。2012年より絵画制作を始め、2016年には美術館での初の個展「シンシアリー・ユアーズー親愛なるあなたの宮エリーより」（十和田市現代美術館、青森）を開催し、街の商店街にも作品を展開。2019年には海外ギャラリーでの初個展「A Wonderful Forest」（TICOLAT TAMURA、香港）を開催すると同時にアートパーゼルに参加し、ミラノ、パリでも個展を開催。2022年、Galerie Boulakia（ロンドン）にて個展。2020年より教育にも力を入れ、クリエイティブ力を鍛える学校「エリー学園」、ことばとアートの学校「こどもエリー学園」をオンラインで開講。

【本リリースに関するプレス問い合わせ先】取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

公益財団法人 福武財団 コミュニケーションプランニング部 広報・プロモーションセクション

メール：press@fukutake-artmuseum.jp 電話：087-892-2550（平日：8:45~17:30）

INUJIMAアートランデブー

「INUJIMAアートランデブー」は犬島において、人びとの交流のきっかけとなるような作品やイベントを展開する2022年より始まったプロジェクトです。アーティスト 大宮エリーの作品が少しずつ島内に点在していき、来島者が島内に点在する大宮エリーの作品を目印にランデブー＝待ち合わせをし、ときに休憩しながら、島を散策することを目指します。

■フラワーフェアリーダンサーズ（2022年 春公開）



INUJIMAアートランデブー 大宮エリー 《フラワーフェアリーダンサーズ》2022年 写真：大宮エリー

犬島島内に咲く草花をモチーフに、それらが妖精になって踊っている場面を立体作品として表現しました。展示場所は、島の盆踊りが行われる「ちびっこ広場」で島の方々ににとって親しみ深い場所が選ばれました。

本作は、腰を掛けたり、自由に触れあえたりするインタラクティブな設計により島の方や来島者の自然な交流のきっかけになることを目指します。

■関連イベント：フラワーフェアリー生誕祭



「フラワーフェアリー生誕祭」大宮エリーと参加者の様子

2022年5月28日及び6月5日に《フラワーフェアリーダンサーズ》をテーマにした子ども向けのワークショップを実施しました。

大宮氏と作品を鑑賞した後、島の植物を観察し、「自分が考えるフラワーフェアリーダンサーズ」をテーマに絵を描きました。描いた絵は大宮氏が制作したオリジナルの額縁に額装されプレゼンとされました。

島の方々はイベントの様子を参観され、近隣の子もたちと島の方々の交流の機会となりました。

【本リリースに関するプレス問い合わせ先】 取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

公益財団法人 福武財団 コミュニケーションプランニング部 広報・プロモーションセクション

メール：press@fukutake-artmuseum.jp 電話：087-892-2550（平日：8:45~17:30）

■光と内省のフラワーベンチ（2022年 秋公開）



INUJIMAアートランデブー 大宮エリー 《光と内省のフラワーベンチ》2022年 写真：大宮エリー

犬島の四季や草花、人々の循環をイメージして表現された絵柄は、ベンチの背面に光が差すことで、ステンドグラスのように地面へ移りこみます。

穏やかな瀬戸内海が臨める犬島の南西側の海岸沿いに設置されました。

本作を通して、海を見ながら佇み、様々なことを考え、反芻するきっかけになることを願います。

■INUJIMAアートランデブー 作品概要

住所：岡山県岡山市東区犬島島内

電話番号：086-947-1112（犬島精錬所美術館）

開館時間：10:00 ～ 16:30 ※屋外展示作品ですが、安全にご鑑賞いただくため時間外のご鑑賞はご遠慮いただいております。

休園日：火曜日－木曜日（3月1日～11月30日）※ただし祝日の場合は開館／全日（12月1日～2月末日）※不定休あり。[ベネッセアートサイト直島ウェブサイト開館カレンダー](#)にて随時更新。

鑑賞料金：無料 ※犬島精錬所美術館と犬島「家プロジェクト」は共通チケット 窓口：オンライン購入 2,100円／窓口購入 2,300円

駐車場：なし

Webサイト：<https://benesse-artsite.jp/art/art-rendezvous.html>

■ベネッセアートサイト直島とは

「ベネッセアートサイト直島」は、直島・豊島（香川県）、犬島（岡山県）を舞台に株式会社ベネッセホールディングスと公益財団法人 福武財団が展開しているアート活動の総称です。

瀬戸内海の風景の中、ひとつの場所に、時間をかけてアートをつくりあげていくこと——各島の自然や、地域固有の文化の中に、現代アートや建築を置くことによって、どこにもない特別な場所を生み出していくことが「ベネッセアートサイト直島」の基本方針です。各島でのアート作品との出会い、日本の原風景ともいえる瀬戸内の風景や地域の人々と触れ合いを通して、訪れてくださる方がベネッセホールディングスの企業理念である「ベネッセよく生きる」とは何かについて考えてくださることを目指しています。

そして、活動を継続することによって地域の環境・文化・経済すべての面において社会貢献できるよう、現代アートとそれを包括する場である地域がともに成長し続ける関係を築いていきたいと考えています。

■ベネッセアートサイト直島の歴史について

参照URL：<https://benesse-artsite.jp/about/history.html>

【本リリースに関するプレス問い合わせ先】取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

公益財団法人 福武財団 コミュニケーションプランニング部 広報・プロモーションセクション

メール：press@fukutake-artmuseum.jp 電話：087-892-2550（平日：8:45～17:30）